

**AKAI**  
PROFESSIONAL

仕事として音楽に向き合う人が語る  
**楽器とレコードの話**



GUEST

OTAIRECORD 代表 井上 ようすけ  
JICO (日本精機宝石工業株式会社) 代表取締役 仲川 和志

聞き手：inMusic Japan 株式会社 青木 隆



## レコード、音楽機材販売の人気店『OTAIRECORD』 代表 井上ようすけに聞く、AKAIとレコードの話。

—— 最近OTAIRECORD MUSIC SCHOOL  
を始められましたね。

以前から inMusic さんとやっている、「PA 自分で  
やってみる。」「レコード女子講座」といったセミ  
ナーを、自分達でも企画して「DJ 講座」「作曲講座」  
など OTAIRECORD DJ UNIVERCITY という題目  
で、2 年間累計で 50 回以上、講座を行いました。

場所は自社のショップの中ではなく、Café だとか  
Club とかです。

「楽器屋さんに来なさい。」ではなく、自分達の  
方からお客様の日常体験している場所に迎えに行  
くというスタイルです。

もちろん楽器店ですから、製品の販売促進目的  
でやっているのは事実です。

でも、参加している方の目を見てみると、販促  
だけでなく、この「教える」という行為そのものが、  
大きな動きになるような気がして続いています。

有料ではありますが、採算としては、赤字です。

しかしそれを 50 回やってみたら、スクールが自然  
と出来ていた感じです。セミナースクールとはいっ  
ても本当に勉強させてもらっているのは我々の方  
なのです(笑)。

—— 島村楽器さんや、ヤマハさんの場合、  
スクールは一つの事業としての稼ぎ頭になっ  
ています。オタレコのスクールの場合  
ビジネスの香りがあまりしないのですが？  
(笑)

(笑)。

他店は、お店で買って貰う事を目的として、スクー  
ルを商売ルーティンに入れて、売り上げを回して行  
く。

オタレコ DJ スクールはそれとは違う位置付けの様  
な気がします。

経費として家賃、電話代がかかります。

もちろん赤字は避けなければならないのですが、  
赤字、黒字という事よりも、オタイレコードという  
会社がスクールを通して何を勉強出来るかという事  
を今は重視しています。

お客様がどこで悩んでいらっしゃるか、どうい  
う時に楽しいか、等もっとお客様の気持ちを知りたい  
のです。

「音楽を教える」というのは仲間を増やすという  
イメージがあります。

生徒に教えて、サポートや主催をさせて頂いてい





▲ DMC JAPAN 2016

1年に1度、限られた時間の中で技術、表現力、芸術性、選曲のセンスなどを競い世界一のDJを決定する世界で最も有名なDJコンテスト。OTAIRECORDは長年日本予選および決勝大会をサポート。



▲ DMC JAPAN 2016 は DJ YUTO が優勝し、日本代表、そして世界一に。



▲ OTAIRECORD MUSIC SCHOOLの様子



▲ BEAT GRAND PRIX

日本最大級のトラックメイク、作曲、ビートメイクの大会。音源をsoundcloudにアップし事務局による審査後11名が2016年11月26日(土)、nagoya JB'Sに集結し音源をプレイし優勝者を決定する。

る「DMC」や「BEAT GRAND PRIX」への参加の道をつける。

参加してもらって、負けて悔しい思いをしたり、思わず良い評価をされたりして、生徒さんは刺激を受けてどんどんうまくなっていく。

そういった「ロードマップ」を作ってあげることが出来れば素敵だなと思っています。

最終的には音楽という業界の中で、少しでも夢とか希望を持てる環境を作ってあげる。

これがオタイレコードという企業の目標でもあります。

サッカーで言うと、最大目標はワールドカップで優勝する、少しずつ目標が小さくなって、プレミアリーグに出る、Jリーグのトップチームに加入する、U-16の代表に選出される、住んでいる街のトレセンに選ばれるなどなど、無数のレイヤーで目標値が存在します。

音楽でもわかりやすい目標値があってもいいかなと思うのです。

音楽はCDがほとんど売れなくなる等、人々があまりミュージックマーケットにお金を落とさない状況で、ミュージシャンはノックしてもノックしても周りが反応しないといった閉塞感を抱えていると思います。

自分は、音楽は本来お金を稼ぐ為のものではな

いと思っています。

いい曲作ってカッコイイと褒められたり、ギター早弾きで、めちゃめちゃアがったり。精神的な充足感や感動が本質だと思うのです。

だから自分はいろんな目標ポイントを作ってあげたいと思っています。

それこそ、町内のカラオケ大会でもいいと思います。

オタイレコードは、DMC JAPAN, BEAT GRAND PRIX という2つの音楽コンテストをサポート＆主催しています。

練習して、あれに出てみたい、勝ってみたいと思わせるようなハレの舞台を運営しています。勝ち負けが全てではないです。

ましてや、作曲に優劣をつける事自体ナンセンスかもしれません。

でもやっぱり勝ち負けはあったほうが張合いも出ますし、わかりやすいと思うのです。

## —— 音楽演奏されます？

はい、最初はギターでした。で、DJ。

そもそも、妹がエレキギターをやっていて、自分はファミコンばかりやっていて、お兄ちゃん音楽やってみなよと、ギターの運指を教えてもらいました。なかなか面白くて、毎日8時間位練習し

ていました。早弾き系の方。

その後、ローランドのミュージ郎にはまりました。コンピューターで作曲ですね、いわゆるDTMです。

MTRを買って、ドラムを打ち込んで、ギター弾いて、ボーカルで歌って、みんなに曲をあげたりしていました。

ベースはシュミレーターでやっていました。ギターの5〜6弦を弾いてオクターブ落とす。

## —— オリジナル志向でコピー曲は志向されなかった？

いや、ビートルズはよく演奏していました。ビートルズは好きでした。

あと DEEP PURPLE の HIGHWAY STAR とか(笑)。

## —— 演る音楽と聴く音楽が一緒だったのですか？

ビートルズのカバーをやっていくうちに、コード進行を引用させてもらって、自分の歌に使うという事になって行きました。

聴く方は、OTAIRECORD というレコード屋という商売をしていて、曲をたくさん聴いていないとお客様の相手ができない。

どんな音楽を聴くのですかとよく聞かれますが、沢山ありすぎて、絞り切ることなんて到底できない。だから、きりがないのでビートルズが好きですと答えちゃっています(笑)。

今のPOPミュージックの根っこにあるものだし。

本当はポールウエラーが好きです。100%好き。曲はもちろん、生き方、服、しゃべる事、真似しています。

今でも「おっかけ」です。歌詞も読みます。彼が良いとしている音楽はほぼ全て聴いて。

日本のアーティストでは作詞家ですが松本隆さんが好きです。歌詞が好きです。

アグネスチャンからKinKi Kidsまで歌詞がやっぱりいい。

## —— 歌詞を聴くのですか？

聴きます。別の耳で聴きます。

ロック聴くとかハウスミュージックを聴くとかと別の耳で聴くのです。

松本隆さんの歌詞は錆びないです。

流行りの言葉は使わないという事が大事で、20年後、30年後を見据えている。

松田聖子が毎週のようにヒットを飛ばしている時も、そこは守っていたそうです。

だから今聴いても鮮度が高い。

## —— 旋律メイクで好きな方は？

ドビッシーですかね(笑)。

## —— ドビッシーって変態じゃないですか？

変態…ですね(笑)。叙情的な部分が本当に好きです。

## —— 旋律がくっきりしていないところとか？

僕、くもり空が大好きなので。晴れている空が苦手です。

## —— 冬は UK で過ごされるのを是非おすすめします(笑)。

感情の波ががーっと来た時に曲をつくる事が多いです。

昔づかれた時は30曲位とかつくったりしました。

メランコリックで自虐的な曲を作って自分で聴きます(笑)。

音の三大要素としてリズム、メロディー、ハーモニー、みんな外せないです。

## —— AKAI PROFESSIONAL というブランドにどんなイメージをお持ちですか？

AKAI といえば MPC ですね。ぼくらの世代は特にそう。

HIP HOP, HOUSE を語る時、絶対「そこ」にある存在。

今は「キュレーション」の時代だと思います。

以前は全世界の人たちに共有されたヒットチャート上の音楽コンテンツも、音楽産業の発展とともに音楽ライブラリー数が莫大になって行きました。もはや個人で抱えられる量ではありません。

私はDJ機材も販売していますが、DJという存在は、キュレーター(選ぶ人)だと思います。

聴いている人や踊っている人に、DJ自身の莫大なプレイリストという「引き出し」の中から、キュレーションしてあげる。そういう存在だと思います。

聴いている人にとって、それが心地よい選曲であれば「いいDJだね」という事になります。

そういった意味でAKAI Professional MPCというサンプラーは、キュレーションマシンだと思うのです。

ジミヘンの鬼フレーズや、エディバンヘイレンのアーミング、古典なフレーズを一生懸命練習してオリジナリティーを追求しても、ギターのフレーズは世の中に出尽くした感があります。既に誰かが弾いている。

自分から出力できる音楽や音の幅には限界があります。

MPCは、オリジナルから音を楽器から立ち上げ曲を作るというより、自分の気に入っている音やフ

レーズのいいものを集めて再構築し新しい楽曲として聴く人に提示できる機械だと思います。

人類音楽史上にある「無数の楽曲」と、今の地球上にある「無数の音」を切り取って、集めて、一塊にして提示する。

今の世界の現在の流れ「キュレーション」にあった形で音楽を制作していく行為がAKAIのMPCでは可能になります。

MPCの歴史は古いですが、本当の意味で今やっと時代にフィットした音楽機材と言えるのではないのでしょうか。

ピアニストに、「ピアノはピアノの音しか出ないですよ。もっと自由になってください」と、言いたいです。

コンサパティブでいる事は美徳かもしれないけど、少し殻をやぶってみませんか？と思っています。

MPCを黒人が多く使っているの、この楽器をブラックミュージックやHIP HOPカルチャーを同じものと見ている人も多いかもしれません。

でも、全然そんな事はなくて、ギタリストやピアニストにもどんどん使って欲しいと思います。

サンプリングミュージックの歴史はまだまだ始まったばかりだと思います。

—— AKAI のレコードプレーヤーの宣伝を作るのに、なんでMPCのハナシばかりしているのかな(笑)？と思ったので、話題を転換しますね。

オーディオマーケットから聞こえてくるのは、「これで聞かなきゃだめよ」というメッセージです。

特にハイレゾ機器の宣伝で、高いサンプリングレートの数値がたくさん出てきてそこに何万円という値段がついている。

でも、そもそも音源として使われるプラグインソフトがそこまで高解像度でサンプリングされていない。

楽曲を構築する音が「ローレゾ」なのに、完成した曲がハイレゾと言われる事にすごく違和感を感じます。

一方アナログレコードはそれに対して記録されている帯域はアンリミテッドです。

だからプレイヤーやアンプ、電源周り、お金をかければかけるほど、原音に忠実な音場再生が可能になるという。

莫大な価格の機材もあります。ここにも抵抗感を感じてしまうのです。

そこで、質問です。

オーディオショップの社長さんにこんな事を質問しちゃいけないのかもしれませんが、この曲はこのハードとシステムで聞きたい、聞かなくちゃいけないと思う事がありますか？

これはレコードで聴きたい。この曲はハイレゾで聞かなきゃダメだよな。というような思いがあった事がありますか？

正直41年間一回も思った事はないですね。

自分はオーディオの商売をやりながら、まずは楽曲ありき。

リスナーが楽曲を認めない上では機械なんかどっちでもいいやと言う事を公言しています。







▲2017年発売予定のMPCシリーズ新製品、MPC X

—— 自分も音楽が好きです。エレキギターも夢中で弾いていました。

ようすけさんと同じで音楽を聴くために購入するアナログプレーヤーとして機械なんかどっちでもいいやと思いながら「ちゃっちい」のは嫌です。

例えばひさびさにギターを買うのに何十万円もするオールドモデルは絶対買いません。

だけど、6～7万円台のギターを購入検討したいです。「オトナ」だし(笑)。

AKAI PROFESSIONAL BT500はそんな感じのアナログプレーヤーだと思います。

30年近く前、MPCは60万円しました。

その値段で無ければ、AKAIもMPCを作れませんでした。

今、MPC TOUCHは10万円もしない価格で買えます。おかげさまで、良く売れています。

それが音楽機器に向き合う適性の値頃かなと思っています。

音楽だけでなく、カメラもそうで、「オトナ」が何かをまた始めようと思う「機材」の値頃感は5～7万円くらいなのかもしれませんね。

BT500が、楽器をやっている人だったら誰でも知っているAKAI Professionalから発売したのは、楽器をやっている人の「なんでもいいんだよ。でも、ちゃっちいのは、嫌。」という感性に近いレコードプレーヤーと思ったからです。

レコードプレーヤーの性能で、レコードに入っている情報を何パーセント引き出せるかというのがあると思います。

そこで自分が許せるパーセント&マージンがあると思うのです。

そのマージンに向き合う際10～20万出せるかと

いうと難しい。

BT500は5万円以内でこのパフォーマンス、かなりリーズナブルだと思います。

音楽って「自分の中でどう鳴っているかが大事であって、機材がどう鳴っているかは問題じゃないのだよ。」だと思います。

科学的にもそうです。鼓膜での振動が電気信号となり脳内に刺激を与えて、そこで感情の起伏を喚起するわけですから。

脳にこびりついている最初のビートルズ。それからいろんな自分の体験を重ねて聴く今のビートルズ、いろんなこびり付きが、同じビートルズという波形を脳内で違った感情に「脳内変化」させていきます。

最上級の音質じゃなくても、脳では違う景色に見える。だから機材はなんでも良いと基本思っています。

自分はオーディオショップを経営しているので、音を1ミリでも良くしようという努力も怠りたくない。

今日も真空管アンプの権威とお会いしていました。

ただ、それとは別次元として、まずはリスナーの感性が大切です。

音質の脳でどう感じるかは別の問題です。

過去にこびりついた記憶をさませるツールとしてレコードを聴くなら「BT500」はとても良いと思います。音も良い。

ION ARCHIVE LPとは違います。ARCHIVE LPはとても便利な道具ですけど、昔から持っているレコードの音をデジタル保存したり、はじめてレコードに向き合ったりする人のために作られたガジェットです。

お客様で、「最低限できれば良いので最低限の推奨システムを提案してください」と言うので、低価格製品の提案をすると「いや、これは流石に…。もうちょっといいヤツないですか?」と必ず聞かれます。

「最低限のコダワリ」がどのお客様にもあります。

BT500は、しっかり過不足なく満足していただける「楽器的なレコードプレーヤー」だと思います。

## オタイオーディオ株式会社

1969年設立。OTAIRECORDやOTAIAUDIOを中心に、レコードやDJ・PA機器を主に販売する。

近年は、音楽を学ぶセミナー企画「OTAIRECORD DJ UNIVERSITY」やDJ SCHOOL、DMC JAPAN、BEAT GRAND PRIX等、幅広く手がける。

### ▶ 問い合わせ

TEL : 0568-48-1610(AM11:00-PM4:00)

FAX : 0568-26-7110

E-mail : info@otaiweb.com

URL : http://www.otaiweb.com





## 日本国内にレコード針一貫生産工場を持つ、 『JICO』仲川和志社長の、楽器とレコードの話。

### —— キーボードを習われているとか？

8年間くらい習っています。

昔は独学で2年間位キーボードでコードを弾いていました。

リズム楽器的に使っていました。でも独学では限度があるなあと、習いに行こうかなと思い、スクールに通いはじめました。

動機としては、8年前に、会社が50周年を迎えて、その時パーティーやイベントを企画していたんです。

その時、音楽に関わっている製品を作っているのだから、何か自分で一曲ご披露できたらいいなと思い、スクールに通いはじめたのです。指先を使い続ければボケないし(笑)。

そのイベントでは、誰かに歌ってもらい、伴奏ができればいいなと考えていました。

でも結局、創立50周年の祝賀イベントは行われませんでしたけどね。

キーボードを習いに行くことは、意外に楽しいです。

### —— バンドもやられている？

はい。前の先生から、キーボードで参加してほしいと、バンドを紹介されました。

### —— メンバー募集を先生がしたのですね？

はい。先生つながりで。ベースの方の教室の先生と、私の先生がつながりがあって。鍵盤弾ける人探しているのだけど、と。

### —— どんな曲をやるのですか？

エレビで、スティービーワンダー、マイケルジャクソン、キャロルキング、ホールアンドオーツ。

### —— ブラックミュージックですね。

そうですね。今のメンバーは7人。年齢的には私は下から2番目です。

一番年上の方は60代の方で、ボーカルを担当しています。

最初リハーサルに行った時は全員女性でした。ほとんど年上。

ドラムがバンマスで女性でした。音楽に対し厳しい人たちでした。

「なあなあ」じゃないし、「つながり」があるわけじゃないし、上下間があるわけでもない。学生時

代のつながりもない。「はじめまして。さあ、やりましょう！」という感じでした。

息が合うまで時間がかかりましたよ。

### —— 飲みに行ったりしないですね？

しないです。たまにお昼ご飯だけ(笑)。練習もお昼です。

きっちり始まって、きっちり終わり、じゃあまた来月。ってな感じです。ビジネスライクなバンド(笑)。

毎回3～4時間毎月練習します。ライブの前は月2回になります。

### —— ライブもやられるのですね？

発表会みたいなものです。対バンもあります。

相手バンドには、若い子もいるし、我々と同じ世代の方もいらっしゃる。

音楽がかぶらないように、ライブでは調整しています。

### —— なんかクラブイベントのDJっぽいですね(笑)。

J-POPのバンドとやることが多いですね。

調整はバンマスがします。自分は何もしないです。

全部用意されているのですが、基本的に自分では曲も選ばない。全部決められています。

これやりますという事で、MailにYoutubeのリンクが貼られていて、次までに耳コピよろしくと。

### —— 夢中になって取り組まれている？

いやいやいや、そうではないですね。辛いです(笑)。

### —— じゃなんでバンド、やっているのですか(笑)?

緊張感が欲しいからかな。刺激が欲しい。生の感じ。消えゆく儂い感じ。

仕事って終わりが無いじゃないですか？達成感がない…いやありますよ。仕事でも達成感はある(笑)。

でもライブが「終わった！」って感じの達成感はないですね。仕事は連続していますから。ライブは「切り」がある。

ライブに向けてテンションをあげて、ライブでテンションMAXになって、で「終わった～！」で、ほんと切れる。その「切り」が好きです。

### —— お家では音楽を聴いていらっしゃるますか？

すごく仕事上申し上げにくいのですが、家ではインターネットラジオが流れっぱなしです(笑)。

テレビは好きじゃないです。

音楽は好きなのですが、生活の中で「音」が欲しいのです。テレビだと人の声が邪魔。話し声が好きじゃないのです。

だから日本のFMラジオは好きじゃない。「話すな

よ！笑うなよ！」って思っちゃう(笑)。

昔、AMはおしゃべりを楽しみ、FMは音楽を楽しむものという区別がありましたけど、最近あまり差が無くなっている気がしますね。おしゃべりばかり。

### —— 音楽のお好みは？

70-80年代の音楽です。

でもバンドをやっていると、前は全く聴かなかった「インコグニート」とか好きになりましたね。

### —— 弾く前提で聴いていませんか？

そうかもしれません。

### —— だとすると「音楽」として聴いているというより、「音」として聴いていませんか？

コードを聴いているのだと思います。

コード進行やコードが好きです。鍵盤でコードを叩くのが好きです。

### —— あまり、音質はこだわらない？レコード針を作っている会社の社長様にこの質問は不躰ですね(笑)。

結局「いい音ってなんだろう？」って追求した時に、生の演奏にかなうものはないと思います。生に近い音を好みます。

デジタルだと「生」の音より音質が良かったりします。

ライブハウスで聴く音より、デジタルの音質の方が良いと言われる方もたくさんいらっしゃると思います。が、私は多少こもっていたり、歪んでいたりする音が生の音に近い気がして好きなのです。

客席で座る位置によって音の聴こえ方が違ったりする。

### —— 「生の音」とは？

やり直しが利かない音です。

コンテンツとしてはライブ音源が好きです。

作られた、いいトコ採りした、「つぎはぎ」の録音より、昔の一発録りのような音源の方が緊張感を感じます。

### —— 音そのものより、「生」では、人の気持ちを感じるからですか？

空気感でしょうね。

失敗できない！というような緊張感とか、ちょっと失敗したけど、取り返しにかかり、うまく収めるような感じ。

そんな音は家でインターネットラジオで聴いている音楽で感じる事はないです。

音楽を聴くのも「ON」と「OFF」がありますね。



しっかり聴きたい時と、流して聴く時では違います。

ジャンルに関わらず、有名、無名に関わらず、「生」の真面目な演奏を聴いてみたいです。

—— レコード針をつくっていらっしゃる世界でも数少ないメーカーさんとして、今後のアナログレコードに対する方向性や未来感を教えてくださいませんか？

この1年ですごく考え方が変わりました。1年半前は音楽業界に携わっているなんて全然思っていませんでした。

レコード針は自分達が手がけている工業製品のひとつにすぎませんでした。

お客様がご注文いただいたある規格の製品を、規格の範囲とスペック内できちっとお届けする。

それがたまたまレコード針で、細かく一対一みたいな意味合いを込めて作らせていただくという事をしているだけにすぎなかったと思います。

自分達は、お客様が要求するスペックよりもいい針も作れると思います。

でも、それはやっちゃいけない。決まったスペックを遵守する。

「こうした方がこの針良くなるのだけだな。」と思う事はありますが、それはやっちゃいけないのです。

もちろんレコード針も工業製品として規格やスペックから、落ちてはいけません。でも上げてはいけないのです。

買ったお客様が「前よりいいじゃん」という

より「前と変わらない」という事を私たちはベストだと思っています。

「7年前に買った物と変わらないね。」そう言われる事を目指す事がメーカーの姿勢だと思います。

もし、いいモノが出来たら、別の品番にして、「これは違うモノです。」ときちっと区分けすべきかと思います。

おまんじゅうと一緒にですよ。世代が変わって、店主が変わっても、「やっぱりココのは変わらない。」と言われるのありがたいですと思うのです。

—— ここ1年で音楽の仕事をしていると感じられているとおっしゃられていましたか？

はい、音楽メディアの皆様とお話する事や、オーディオの試聴会に自社の針やカートリッジを展示する事が増え、エンドユーザー様と直接お話を頂く事が多くなって、「音楽の仕事をしているのかな?」と感じるようになりました。

今までは、レコード針が自社の工業製品の一部でしかなかったのですが、お客様の余暇に使うモノである事に今更ながら気づき、もっと楽しく製品を伝える事をしなければ、今までの伝え方を変えなければと感じるようになりました。

無機質な工業製品だけど、お客様の「エモーション」な「楽しい」時間にお使い頂く製品ですからね。

だから、もっと自分から話さないと思っています。

製品ディテールのこだわった話。開発のストーリー。こんな風につくっていますとか。こんな思いでやっていますとか。ここ苦勞していますとか。買っ



たお客さんから、こんなお話いただきましたとか。逆にお客様からはもっとモノづくりの裏側をみたいとかリクエストも来ます。

正直、こうした話は、今までやった事ないし、必要ない事だと思っていました。

ストーリーなんて、お客様にしてみればそんなに面白くない話だと私達は思っていました。

でも買ったお客様からしてみると、そのストーリーを含めてレコード針という製品なのだと気付いたのです。

## ——なぜレコード針の生産を御社は始められたのですか？

縫い針の生産から始まった弊社ですが、蓄音機の針を始めたのが3代前です。

製法は似ています。蓄音機の針はちょっと太めのピンみたいなものなのです。

でも、蓄音機は早晚無くなると思い、レコード針の開発と生産を始めたのです。

## ——CDが出た時、相当の危機感があったと思いますが、レコード針の生産を続けられた理由は？

日本向けの出荷は激減しました。が、主戦場のアメリカ&ヨーロッパからは変わらずご注文がありました。

弊社は先々代から所有している工場が遠隔地にあって、その工場ではレコード針の一貫生産が可能です。

成型も全て内製化しているので、他社さんから部品を買う必要が全くありませんでした。

辞める理由が見当たらなかったのです。

## ——社長自身がレコードを聴かれる事がありますか？

イタイ質問ですね。正直あまりないです(笑)。



▲ レコード針は、ていねいに手作業でセットされる。



▲ レコード針のチェック

会社の中に古いオーディオ機器を並べて、試聴コーナーを設けました。

また2016年は、試聴会ですごくレコードを聴きましたね。

でも、もっと聴かなきゃと。レコードは敷居が高い。コーヒーで例えると豆を挽いて、ドリップ落とすコーヒーに似ています。

でも缶コーヒーが美味しいと思える時もあるでしょう？音楽を聴く機材にこだわりはありません。

家にはレコードプレーヤーはありません。ごめんなさい(笑)。みんな会社に持ってきちゃいました。

もし自分で使うレコードプレーヤーを買おうとしたら、自分の会社の針が使えるプレーヤーを買うでしょうね。

うちの針が使えるプレーヤーにあんまり高額なものはないですね。

楽器の話にもどりますが、高いキーボードにはいろんな機能がついています。

キーチェンジャーとか、白鍵で難コードが簡単に弾けます。でも苦勞して自分で黒鍵いっぱい使ってがんばって弾いて。

面倒くさいけど、その難易度と時間を楽しまないで演奏する意味がないと思います。

それってレコードに凄く似ているかもしれませんね。

### 日本精機宝石工業株式会社(JICO)

1873年に「仲川製針工場」として縫い針製造を創業、1959年に業務拡大に伴い「日本精機宝石工業株式会社」を設立。レコード針だけでなく、歯科用バーや工具用ダイヤモンド製品等も手がける。レコード針は2,000を超えるメーカー針と一緒に取り揃える。

▶ 問い合わせ  
TEL : 0796-82-3171 (本社／代表)  
FAX : 0796-82-4110  
URL : <http://www.jico.co.jp>





**AKAI**  
PROFESSIONAL

AKAI Professionalの、  
Bluetooth対応レコードプレーヤー



BT500

ウォールナット仕上げの木製パネルを基調とした  
モダンかつ伝統的なデザインです。

 **Bluetooth®**

EAN : 0694318019016

BT500 **BLACK**

BT500のNEWカラー。  
光沢のあるブラック仕上げです。

 **Bluetooth®**

EAN : 0694318019979



BT500は、懐かしいコレクションから最新のプレミアムなアナログ盤まで、音楽のディテールやニュアンスを忠実に再現する、現代のアナログ・ターンテーブルです。

モーターのノイズや振動を機械的に排したベルトドライブ方式を採用し、重量感のあるアルミダイキャスト・プラッターを駆動させることにより、優れた回転精度とS/N比を実現します。

〈特徴〉

- 精度の高いトラッキングを可能にするストレート・トーンアームやアンチスキューティング調整機能、繊細な針圧調整が可能なカウンターウェイト
- 水平設置が容易な水平器と調整可能な脚部
- 安定性の高い優れた回転精度と S/N 比を実現する重量感のあるアルミダイキャスト・プラッターとゴム製スリップマット
- LINE/PHONO 切り替え可能なフォノプリアンプ内蔵



<http://akai-pro.jp/bt500/>



